

第14回「なら県民電子会議室」運営委員会議事録

1. 日時：平成20年12月20日（土曜日）13：30～17：00
2. 場所：奈良県庁舎 6階 61会議室
3. 出席者；荒川隆行、安西恭弘、石川千明、金田充史、木谷延高、城戸振作、木村新一、坂田安男、杉島靖郎、高原典秀、多田充朗、堤征夫、中西久夫、林 正泰、松村賢一、三宅基之、柳沼壽徳、遊津隆義、渡辺 孝、
4. 議題：
 - (1) 意見交換会
テーマ：「奈良県の観光振興について」
講師：奈良県文化観光局観光振興課 課長補佐丸山隆氏
テーマ：学校支援地域本部の取組について
講師：コミュネット会長 三宅基之氏
 - (2) 電子会議室報告
コーディネーター報告
事務局報告
県からの報告
 - (3) その他
5. 議事の経過の概要
 - (1) 意見交換会
講師の講演の後、質疑の時間を出来るだけ多くして、質疑応答に重点を置いた。従って、各テーマとも大幅に時間を延長したので、有意義な意見交換ができたと思う。
「奈良県の観光振興について」
文化観光局観光振興課 丸山課長補佐より、奈良県の観光行政における奈良県の現状を示す各種データや観光戦略、観光振興の課題及び取組みについて詳細のお話を頂いた。取組みとして、魅力の創出・発掘、観光情報の発信、観光客の受入れ環境整備、外国人観光客の誘客の4つの重点政策について解説があった。その後、活発な質疑応答があった。主なものとして、これらの施策によって、
・一般県民はどんな恩恵をうけるのか、
・今後の誘客数の見通しは？
・宿泊客数のデータの取り方（国交省のデータと異なる）、
・情報発信の問題点、
・おもてなしの活動について、
・県がやることと民がやることのメリハリ、ボランティアマッチング、観光環境保全、観光行政のあり方（観光連盟、観光センターなどの一元化）など、たくさんの質疑がなされた。

「学校支援地域本部の取組について」

コミュニティ会長の三宅氏より、この事業の目的、背景、設置体制や現状、取組み事例、課題などのお話を頂いた。目的として、「地域の大人が多く関わることで、多様な体験、経験の機会が増えたり、規範意識やコミュニケーション能力の向上などの効果が期待され、かつ、教員がより教育活動に力を注ぐもとができるようになり、学校教育の充実を図ることができる。さらに、地域住民が自らの知識や経験を生かす場が広がり、生涯学習社会の実現や地域の教育力の向上を図ることができる」としている。

課題について、学校の受け入れ体制、責任の所在、官の主導よりも民の主導、発想の転換、など問題は山積されている。地域コーディネーターの役割が大きい。

質疑応答で、理想的な目標と実情には大きなギャップがあり、その問題の分析や学校との連携促進など、活発な議論があった。

2. 電子会議室報告

(1) コーディネーター報告

T-1、T-2、T-3、T-4 の各コーディネーターより、各電子会議室の現状の報告があった。正、副のコーディネーターより、活発な意見があった。

(2) 事務局報告

事務局より、電子会議室へのアクセス、投稿、登録などのデータについて、報告があった。

課題として、投稿者が固定化していること、アクセス数、投稿数も横ばいであること、従って、普及活動について出席者の協力を要請した。

特に、副のコーディネーターの役割を再認識してほしい。

より多くの県民の理解と関心を高め、多くの会議室参加者の呼びかけを継続し、幅広く議論が出来る「なら県民電子会議室」にしていきたい。

(3) 県からの報告

前期の「電子会議室報告書」に基く提案事項について、県の関係部門での取り組みについて、来年2月ごろにホームページに掲載できるようにする。

また、来年度の電子会議室の取組については、予算申請はしたが、正式に決定されるかどうかは言えない、との報告があった。

以上。